

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年10月19日

No.2

年末手当交渉スタート！！

基準内賃金×2.6ヶ月要求！

回答指定日 11月15日
支払指定日 12月6日

中央本部は、本日2012年度年末手当の申し入れを行いました。申し入れにあたり中央本部は、①今年度は成長戦略を基軸とした経営計画を立ててスタートしたが、中間決算見通しは赤字を余儀なくされており措かれている状況は非常に厳しいことを経営陣以上に認識している。②下期においてソリューション活動やトップセールス・余席販売の強化などによって計画通りの経常利益を計画していることから支払い能力はある。③貨物労組組合員は、収入確保はもとより安全の確立と安定輸送の確保を通じて物流の面から社会的使命を果たす企業の一員として最先頭で努力してきた。④春闘でも確認したが、退職者の増加により各系統の要員が逼迫し、安全輸送が脅かされている。職場は「著変状態」にあたり、要員増に向けた議論もさせていただく。⑤この間の賃金抑制の結果、可処分所得は減少し組合員の生活は非常に厳しい状況にある。組合員のモチベーションを高め黒字を達成するためにも、「人」に投資していくことが、安全輸送・安定輸送につながることを申し述べ、誠意ある回答を示すことを主張しました。

J R 貨物労組本部 4号
2012年10月19日

日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長 田村修二殿

日本貨物鉄道労働組合
中央執行委員長 相澤武志

2012年度年末手当の申し入れ

J R 貨物会社は、経営自立計画、中期経営計画「飛躍」及び、平成24年度事業計画を「三位一体」のものとして、成長戦略を基軸とした計画をスタートさせましたが、中間決算見通しは赤字を余儀なくされる状況にあります。しかし、下期の収支見通しについては、ソリューション活動やトップセールス、余席販売の強化等によって、年度初計画通り経常利益目標の達成を目指しています。その一方で、ひとたび自然災害や輸送障害等の発生によって収入が左右される脆弱な経営基盤であることも事実です。そのような状況の中で、貨物労組組合員は、収入の確保はもとより、安全の確立と安定輸送の確保、そしてJ R 貨物が鉄道貨物輸送事業者として、物流の面から社会的使命を遂行する企業とするため職域から奮闘してきました。その結果により、昨年と比べて収入が拡大しています。J R 貨物経営者は、これらのことを真摯に受け止め、これまでの組合員の労苦に報いなければなりません。また組合員の生活は、可処分所得の減少等によって一層厳しい状況にあります。これに対しても、「生活給」である年末手当において積極的に対応し、組合員の期待に応えるべきです。

2012年度年末手当について下記の通り申し入れますので、誠意ある回答を示されたい。

記

- 2012年度の年末手当要求額は、基準内賃金の2.6ヶ月とする。
- 回答指定日は11月15日とする。
- 支払指定日は12月6日とする。
- 支払に際しては、真面目に努力している社員の期待に応えるものとされたい。

以上

これに対して会社は、①10月9日に石巻港駅が復活したことによりほぼ震災前の輸送体系に戻ることが出来た。②上期の輸送量は対前年104%を記録している。しかし昨年は災害の中での数値であり、改善されているとはいえ、対計画では94%で推移しており非常に厳しい。③第三者委員会でも経営計画へのフォローをどうしていくのか問われている。④余席販売や31フィートコンテナ輸送の開始など、様々な施策を打ち出すことにより今年度黒字確保に向けて取り組んでいく。安全についても同様に取り組んでいきたい。⑤年末手当については、上期の状態及び現在の状況を見極めた上で真摯な議論を通じて進めていきたい。と現段階の考え方を明らかにしました。

組合員の皆さん！私たちはこの間、新たな段階を迎えたJ R 貨物改革のたまたかの完遂に向けて現実に向き合い、責任組合として取り組んできました。一方、会社は「厳しい状況」を理由として外部や株主の動向ばかり注視し、組合員の措かれている現実から目をそむけています。

措かれた厳しい状況を自らが切り拓いていくために全組合員が一丸となって闘いをつくり出そうではありませんか。中央本部は、組合員の想いに立ち、その最先頭で奮闘していく事を明らかにして、第1回交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は10月31日(水)です。